

I C T 実技研修講座

『スコアメーカー』

学 校 で の 活 用 例

合唱や器楽合奏の完成形を聞く

楽譜をスコアメーカーで読み取り、PC上で演奏させることができる。また、CDに焼くことも可能。

パートごとの楽譜作成

合唱や器楽合奏の楽譜をパートごとに作成することができる。CDに焼けば、子どもの自主練習に活用。

今 回 の 講 座 で は ・ ・ ・

1. 起動パネルからはじめよう
2. 楽譜認識してみよう
3. できた楽譜を直してみよう
4. パートごとの楽器をかえてみよう
5. パート譜を作ってみよう
6. 作った楽譜を CD にしよう
7. 困ったら…&おまけ
8. 最後に

目次

1. 起動パネルからはじめよう	3
(1) 体験版を準備しよう	3
(2) 起動画面を見てみよう	4
2. 楽譜認識してみよう	5
(1) ページ登録をしよう	5
(2) パート構成をしよう	6
(3) 五線記号を確認しよう	7
3. できた楽譜を直してみよう	7
(1) 小節エラーの表示箇所を見つけよう	7
(2) 修整の仕方を知ろう	8
(3) 音符や記号を消したいとき	8
(4) 音符や記号を移動させたいとき	9
4. パートごとの楽器をかえてみよう	9
5. パート譜を作ってみよう	10
(1) スコア譜の中から指定したパートのパート譜を作る方法	10
(2) 全パートのパート譜を一括して作る方法	11
6. 作った楽譜をCDにしよう	12
7. 困ったら…&おまけ	13
(1) 範囲指定のしかた	13
(2) 演奏のしかたや、学校でのパート練習の一手間	14
8. 最後に	17

1. 起動パネルからはじめよう

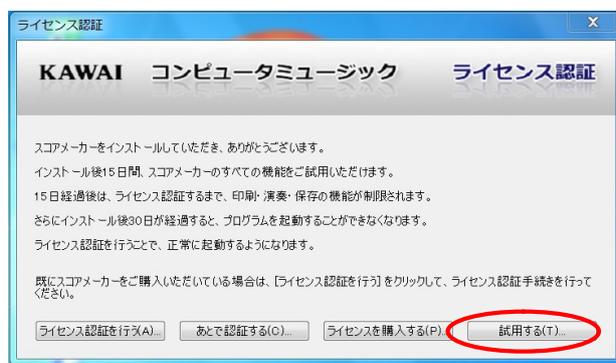
今回使用するのは、「スコアメーカー11 Standard (体験版)」というバージョンのソフトです。このスコアメーカーには「Platinum」「Standard」「Elements」「スコアパレット」の4種類があります。その中の標準的な機能なのが「Standard」です。ただし、「Platinum」と同等の機能を兼ね備えた「学校専用」のスコアメーカーもあります。

Platinum	: スキャナー認識◎	楽譜作成◎	一番高機能。
Standard	: スキャナー認識◎	楽譜作成○	16パート以上は作れない。
Elements	: スキャナー認識△	楽譜作成○	認識機能が限定。
パレット	: スキャナー認識×	楽譜作成○	楽譜作成・編集、演奏機能のみ。

(1) 体験版の準備をしましょう

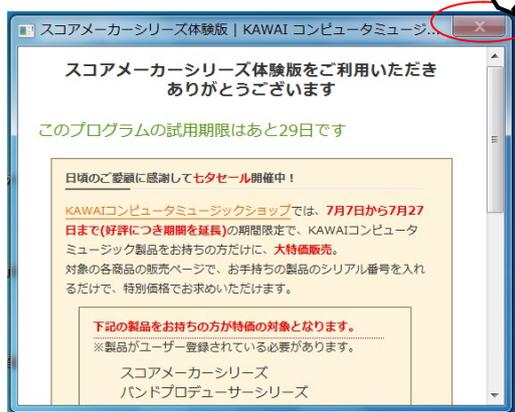
まずソフトをインストールするとアイコンが出るので、起動するときはこのアイコンをダブルクリックします。すると右のような画面①が出てきます。

体験版なので、このような画面が出ます。「試用する」タブをクリックしてください。

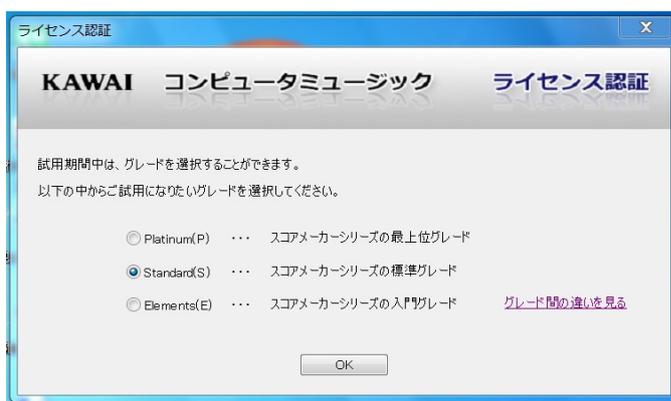


画面①

次に下のような画面②が出たら、「×」をクリックして、画面を消しましょう。



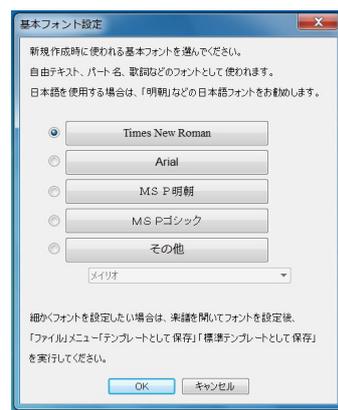
画面②



画面③

そして、上のような画面③がでたら、「Standard」を選択して、OK タブをクリックしてください。

最後に右の画面④が出てきますので、使用するフォントを選択してください。「MS P 明朝」か「MS P ゴシック」のどちらでもいいです。その他のフォントを選んでもかまわないと思いますが、今回はどちらかにしておいてください。選んだら OK ボタンをクリックしましょう。この画面④は一度選ぶと、次からは出てきません。



画面④

(2) 起動画面を見てみよう

下の画面⑤が出てきたと思います。この画面は、これから行いたい作業に移りやすいようにナビゲートしてくれます。また、説明やガイド画面にも移動できます。

スキャナーで楽譜を読み込みたいときは… 『楽譜認識』
 前に作った楽譜を開きたいときは… 『開く』
 音符を入力しながら楽譜を作りたいときは… 『標準の新規ファイル』か、『新規作成ウィザード』
 使い方がわからなくなったら… 『調べる』 →ヘルプ画面へ。



画面⑤

他にも、様々な機能（新着情報や SDF インポートなど）が付いていますが、今回の講座においては省略します。学校において最も使用するであろう『楽譜認識→楽譜の修整→音源化』という流れを確認したいと思います。

2. 楽譜認識してみよう

スコアメーカーで楽譜を読み込むには・・・

楽譜を画像データに変換する



画像データを楽譜データに変換する

(スコアメーカーでは「認識する」といいます)

という2つの手順を経ることになります。

(1) ページ登録をしよう

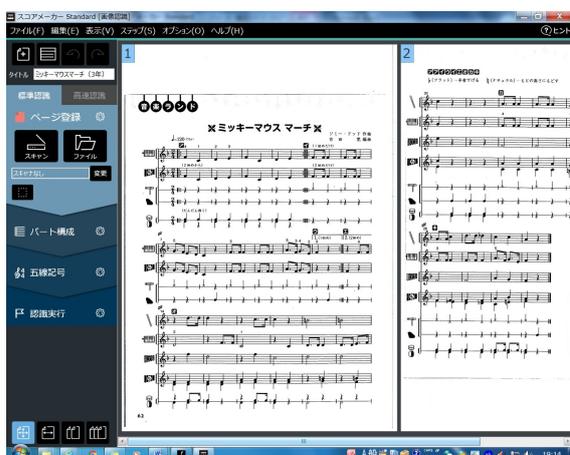
まずは、この画面⑥が出てきます。PCとスキャナが繋がっていれば、**スキャナ**をクリックします。それによって、ページ登録が行われます。スキャナとPCが繋がっていないときは、**PDFファイル**にした画像(他のPCなどでスキャンした画像)を、**ファイル**から開きます。



画面⑥

右の画面⑦のようになれば、ページ登録完了です。

次はパート構成です。

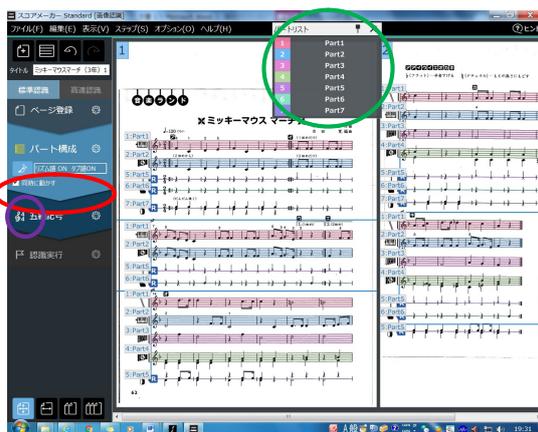


画面⑦

(2) パート構成をしよう

① パートを設定しよう

『**パート構成**』をクリックすると画面⑧になります。そこに**パートリスト**が出てきます。もし出てこないときは、**ラッパ**のマークをクリックしてください。このパートリストで、どんなパートがあるのか設定します。



画面⑧



画面⑨

この設定は、楽譜のパート設定の順番としっかり合わせるようにしてください。

② 楽譜のパートを整理しよう

この段階では、まだ画面⑩のように、パート名と実際の楽譜のパートがずれています。そこで、それらを整理していきます。



画面⑩

次に楽譜についているパート名を修整します。**パート名の数字**をクリックすると**タブ**が出てくるので、パート名を選択してください。



画面⑪

また、青線によって、各大段落が設定されています。それが正しいかどうかを確認してください。青線をクリックすると消え、楽譜の先頭でクリックすると、新たな青線ができます。

(3) 五線記号を確認しよう

次に五線記号をクリックします。画像認識における最後の作業ですが、一番重要で、一番地道な作業になります。



画面⑫

作業は単純です。**追加カーソル**をクリックし、青色になっていない記号（認識できていない記号）を一つひとつクリックしていきます。小節線などが認識されていないことがおおいです。また、誤認識をしている場合があります。そのときは、**削除カーソル**をクリックして削除してから、追加カーソルで再認識させてください。

この作業をていねいに行えば、楽譜認識してからの作業がスムーズになりますので、がんばってください。

3. できた楽譜を直してみよう

元の楽譜との間違いがないか確認していきます。

(1) 小節エラー表示箇所を見つけよう

スコアメーカーでは、楽譜としての構成（拍子記号分うまっているか？など）が間違っていれば、色分け（画面⑬）されます。ピンクになっていれば、一つの小節に過剰の音符や休符があることを示し、紫色になっているときは、足りていないことを示します。

主な原因は、音符や休符を読み取ることができていないことにあります。



画面⑬

(2) 修整の仕方を知ろう

ここで主に使用するのは2つです。

音符や休符について… **音符入力**
小節線などについて… **五線記号入力**



画面⑭

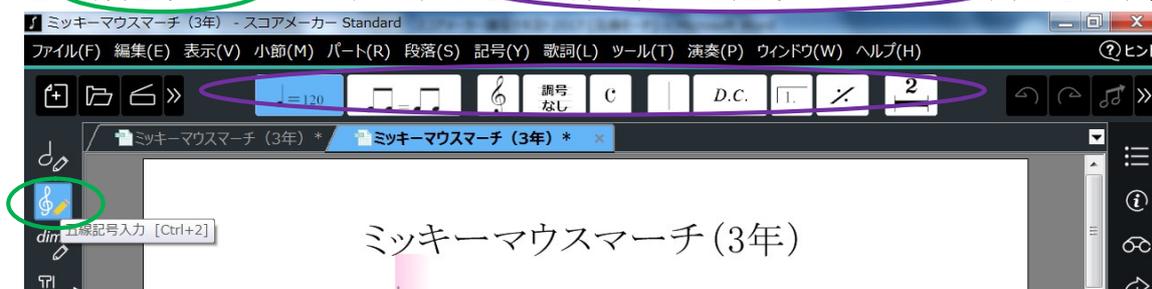
①**音符入力**をクリックすると、**上部に様々な音符などのアイコンが出てきます。**



画面⑮

これらのアイコンの中で、必要なものをクリックします。すると、マウスカーソルがペン(?)のような形になり、五線上にもっていくと、選択した音符や休符があらわれます。あとは、置きたい楽譜の上でクリックすると音符を入力することができます。

②**五線記号入力**をクリックすると、**上部に様々な記号のアイコンが出てきます。**



画面⑯

音符入力と同様に、必要なアイコンをクリックし、置きたい楽譜の上で再度クリックすると、必要な記号を入力することができます。

(3) 音符や記号を消したいとき

音符や記号を消したいときは、**消しゴム**をクリックします。すると、マウスカーソルが消しゴム状になりますので、それで消したいものをクリックしてください。または、**選択**をクリックし、消したいものをクリックします。その記号の色が黄緑色なるので、その状態で『BackSpace キー』や『Delete キー』を押すと消えます。自分で使いやすい方法で行うといいのではないのでしょうか。

(4) 音符や記号を移動させたいとき

音符の五線の位置をかえたり、記号の位置をかえたりしたいときは、**選択**をクリックし、移動させたいものをクリックします。その記号の色が黄緑色になったら、それを移動させたい場所までドラッグしてください。それで移動完了です。

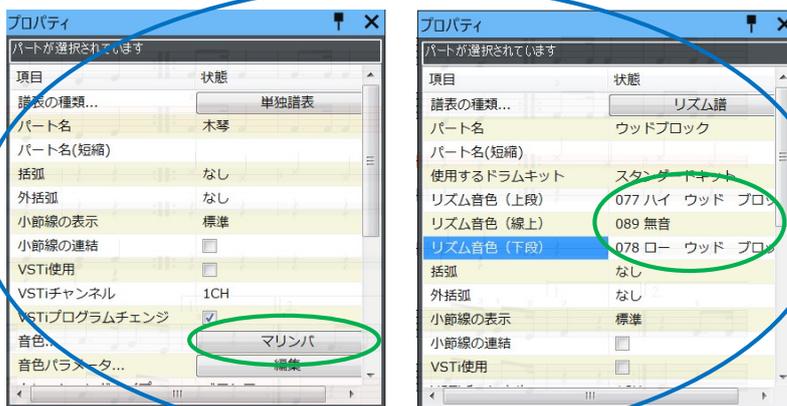
4. パートごとの楽器をかえてみよう

各パートの楽器の音色を変えてみましょう。

まずはパートを選択（13ページ参照）します。そして、**プロパティパネル**をクリックすると、プロパティが出てきます。



画面⑱



画面⑳

プロパティの音色（リズム譜の場合はリズム音色）の**楽器名**をクリックすると、様々な楽器を選ぶことができます。かなり多くの楽器が出てきますので、そのパートに合った楽器を探して下さい。

5. パート譜を作ってみよう

スコアメーカーではパート別の楽譜（パート譜）を簡単に作ることができます。この機能は、パートごとの音源を作成するにも大変重宝する機能です。とても簡単な作業です。

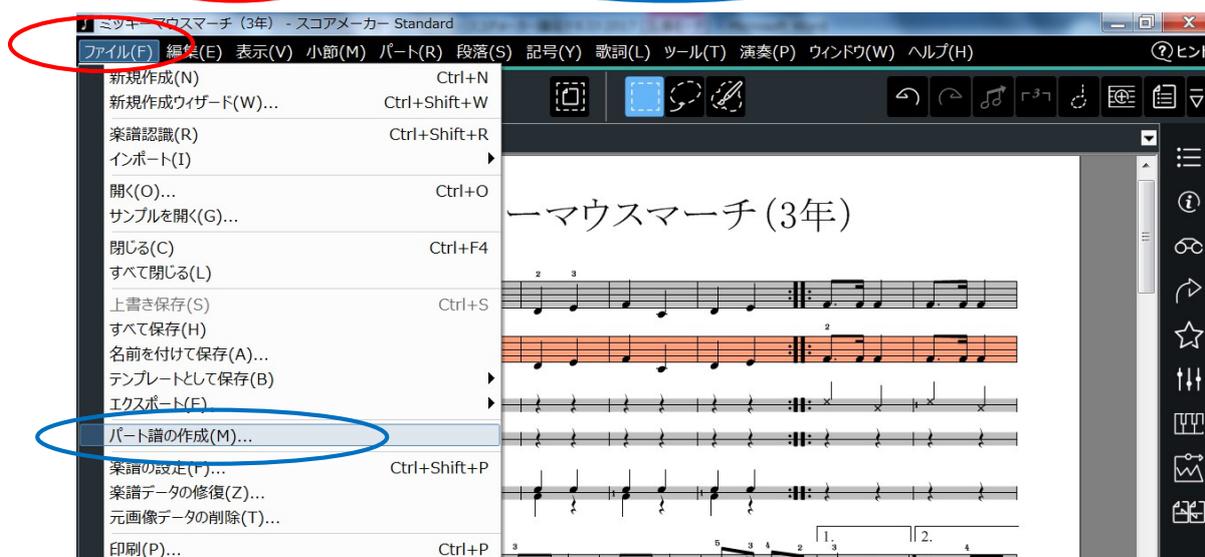
(1) スコア譜の中から指定したパートのパート譜を作る方法

- ① スコア譜を開き、パート譜にしたいパートを選択（13ページ参照）します。

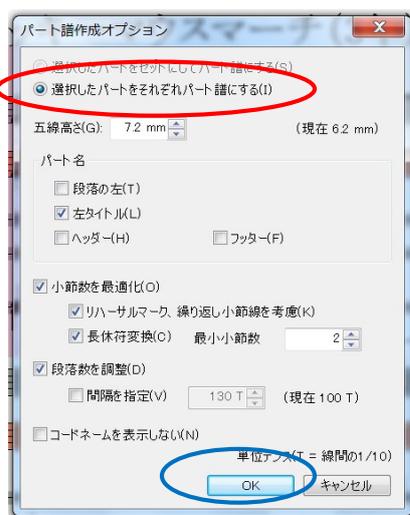


画面⑱

- ② 『ファイル』メニューから『パート譜の作成』を選択します。



画面⑳



画面①

③ 『パート譜作成オプション』というウインドウが出ます。ここでは、『**選択したパートをそれぞれパート譜にする**』にチェックが入っていることを確認して、『**OK**』をクリック。
 スコア譜とは別の画面②が開き、**パート譜**が作成されます。
 なお、元の楽譜は**黄色のタブ**のところをクリックすると出ます。

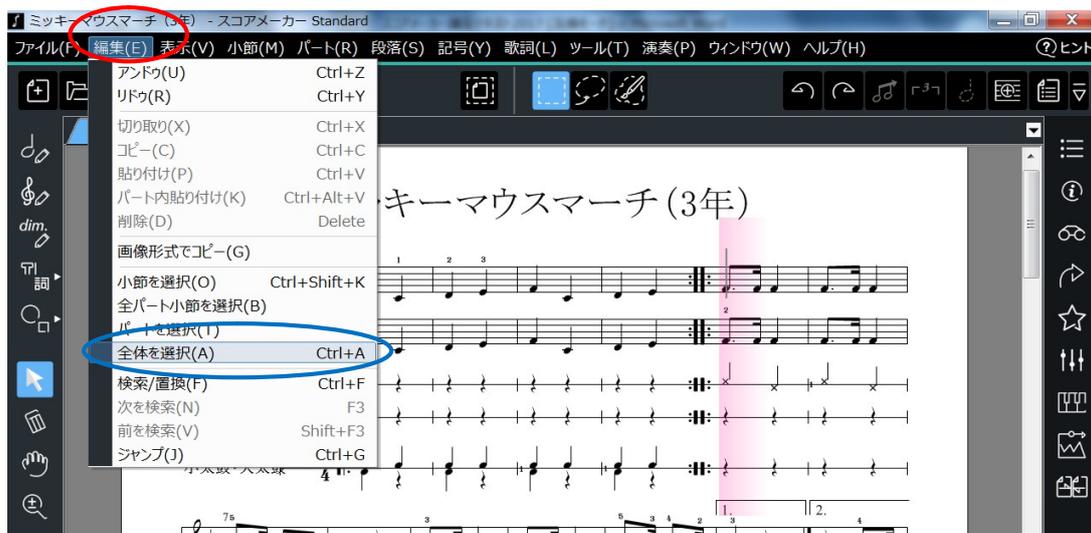


画面②

(2) 全パートのパート譜を一括して作る方法

- ① スコア譜を開いておきます。
- ② 『**編集**』メニューから『**全体を選択**』を選択します。
- ③ 全パートの五線が選択され、楽譜全体がオレンジ色になります。
- ④ 『ファイル』メニューから『パート譜の作成』を選択します。
- ⑤ 『パート譜作成オプション』画面が開くので、『**選択したパートをそれぞれパート譜にする**』を選択し、OKボタンをクリックします。
- ⑥ 全パートが、それぞれ別ファイルに書き出され、作成されたパート譜が開きます。

※作成したパート譜は、それぞれに名前をつけて保存 (『すべて保存』をクリックすると楽) しておきましょう。



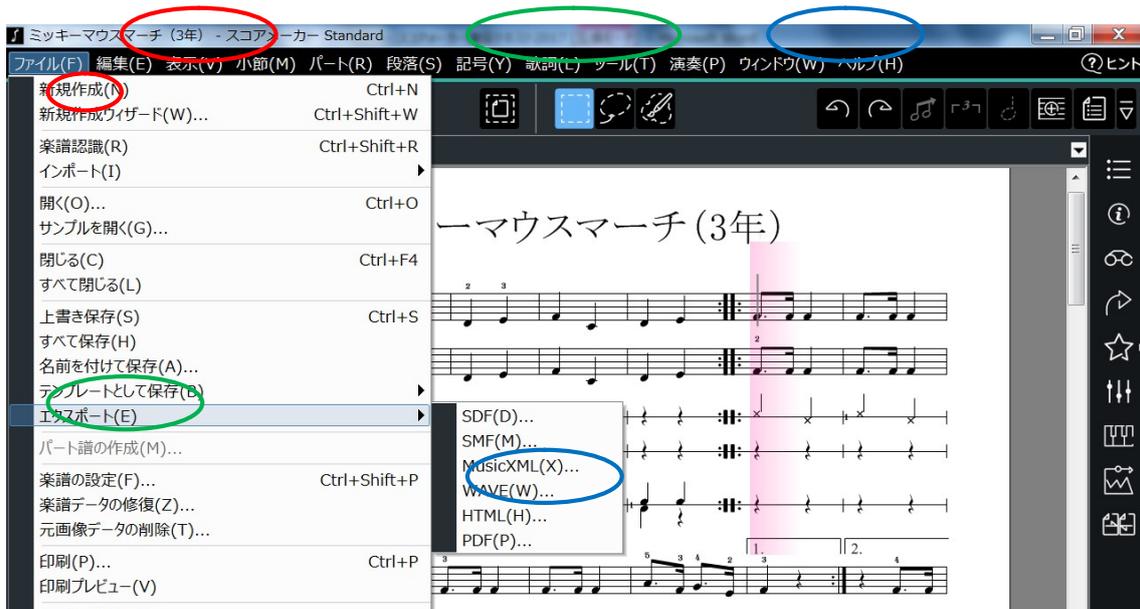
画面②③

6. 作った楽譜をCDにしよう

パートごとの楽譜を作成するだけでなく、パートごとの音源やCDを作成することもできます。ここでは、スコアメーカーで作成した楽譜からCDを作る方法を紹介します。

スコアメーカーで作成した楽譜は「SDX ファイル」(拡張子は.sdx)という形式で作られています。これを音響機器で鳴らすことのできる「オーディオファイル」に変換する必要があります。オーディオファイルには何種類かありますが、スコアメーカーで扱えるオーディオファイルは「WAVE データ」(拡張子は.wav)です。

- ①変換したい楽譜を開いておきます。
- ②『ファイル』メニューの『エクスポート』から『WAVE』を選択します。
著作権に関する表示が出ますが、『OK』をクリックしておけば大丈夫。
- ③『WAVE エクスポート』画面が開きますので、保存する場所を選択し、ファイル名を入力して変換します。
- ④『Windows メディアプレイヤー』などのアプリケーションを使って保存した楽曲をCDに焼いていきます。



画面⑭

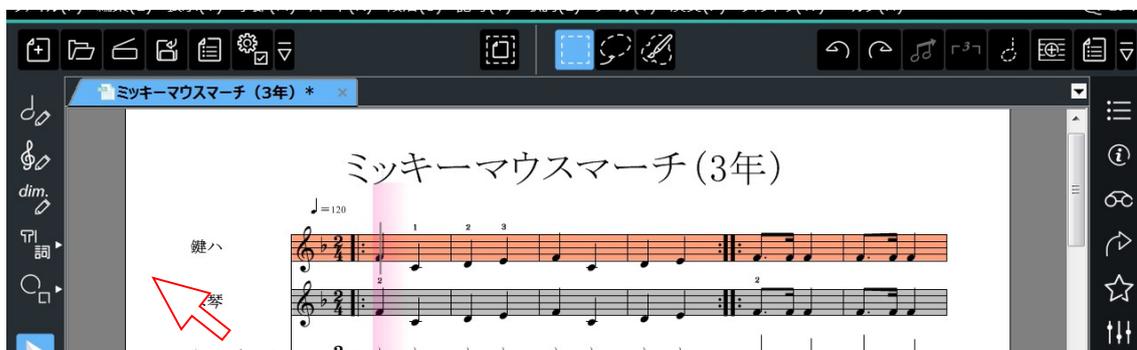
7. 困ったら…&おまけ

(1) 範囲指定のしかた

範囲指定は様々な場面で活用できます。そのいくつかを紹介します。

①パート全体

選択したいパートの左端でダブルクリック。



画面⑮

②パートの1小節だけ

選択したい小節の上でダブルクリック。記号の上ではできません。



画面⑯

③総てのパートの1小節

選択したい小節の空白部分でダブルクリック。

画面⑳

④連続した複数の小節

『SHIFT』キーを押したまま、選択したい小節をダブルクリック。

画面㉑

⑤飛び飛びの複数の小節

『CTRL』キーを押したまま、選択したい小節をダブルクリック。

画面㉒

(2) 演奏のしかたや、学校でのパート練習での一手間

練習のときに使えるようなことを紹介します。

①メトロノームを鳴らしたい

『演奏』→『メトロノーム』をクリック。

WAVE ファイルにした時も、音が入ります。



画面⑩

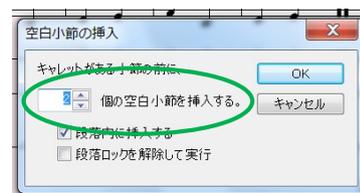
②演奏開始前に、1小節追加しよう

作成した CD で器楽合奏の練習をする際、再生でいきなり曲が入ると、子どもたちが対応できません。そこで、空白の1小節を最初に入れて、メトロノーム。4拍子なら、4拍音が入ります。演奏に入りやすいです。

最初の1小節を選択→『小節』→『空白小節の挿入』→『空白小節の挿入』ウィンドウに、『1』を入力→『OK』
『段落内に挿入する』と、元楽譜と変わらなくていいです。



画面⑪



画面⑫

③曲の速さを変えたい パート1

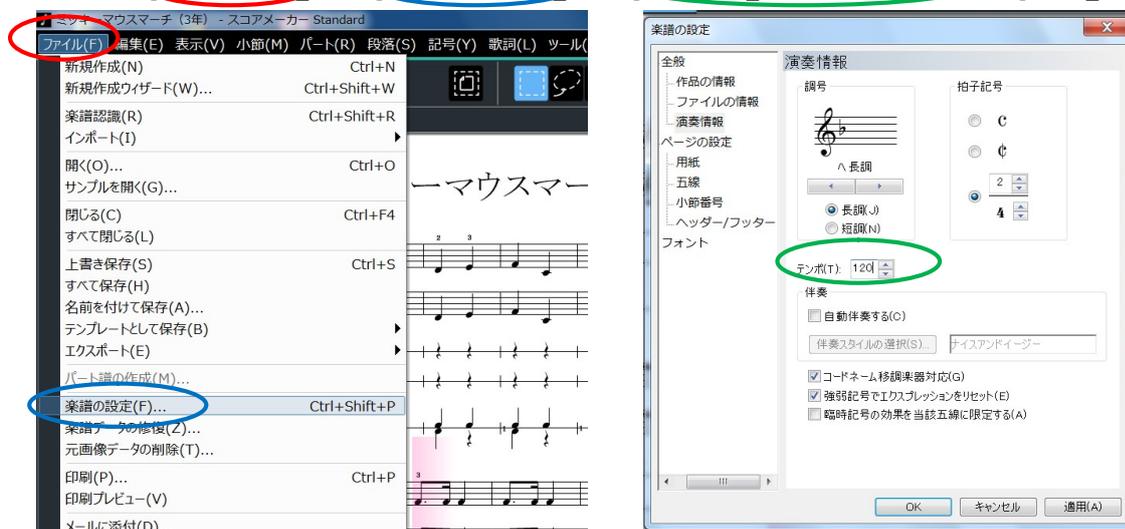
楽譜上にメトロノーム記号をつけてください。その値を変えることによって曲の速さはかわります。



④曲の速さを変えたい パート2

楽譜上にメトロノーム記号をつけなくても、速さは変えられます。

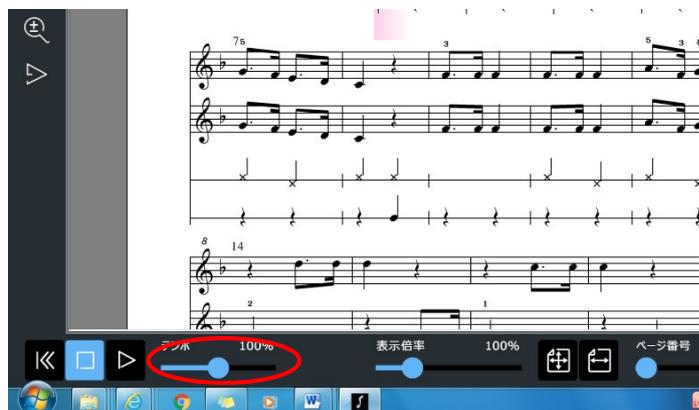
『ファイル』→『楽譜の設定』→『テンポ』に数字を入力→『OK』



この2つの方法であれば、どちらも CD にして練習時に使えます。ただし、スコアメーカーが使える PC が練習場所にあり、電子黒板等で音を大きくすることができるのであれば・・・

⑤曲の速さを変えたい パート3

画面左下にある『テンポ』を変えることで、速さが自由に変えられます。



8. 最後に

私自身、まだまだスコアメーカーの使い方を熟知しているわけではありません。自分にとって必要なことだけを覚えているという段階です。まずは、自由に使っていく中で、自分なりの使い方を見つけていくことが大事なのではないでしょうか。